

■大和市立引地台中学校【分教室型】

学校概要

開校	令和4年4月																				
対象生徒	市内在住の中学校第1学年から第3学年までの生徒 ※特別支援の生徒の受け入れは行っていなかったが、今年度より受け入れを開始している。																				
生徒数	定員30名(各学年10名)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1学年</th> <th>第2学年</th> <th>第3学年</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年開設時</td> <td>1名</td> <td>5名</td> <td>7名</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>令和5年4月</td> <td>8名</td> <td>5名</td> <td>9名</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>令和6年4月</td> <td>8名</td> <td>8名</td> <td>4名</td> <td>20名</td> </tr> </tbody> </table>		第1学年	第2学年	第3学年	計	令和4年開設時	1名	5名	7名	13名	令和5年4月	8名	5名	9名	22名	令和6年4月	8名	8名	4名	20名
		第1学年	第2学年	第3学年	計																
	令和4年開設時	1名	5名	7名	13名																
	令和5年4月	8名	5名	9名	22名																
令和6年4月	8名	8名	4名	20名																	
令和4年開設時	1名	5名	7名	13名																	
令和5年4月	8名	5名	9名	22名																	
令和6年4月	8名	8名	4名	20名																	
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は総括教諭含め4名在籍。 ・管理職、養護教諭、事務職員は本校兼務。(4名については、本校の公務分掌は割り当てられていない) ・5教科のうち不足している教員の授業については、本校教員職員が対応。 ・週2日SCとSSWを配置。 																				
転入学までの流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・生徒ともに教育相談と入室体験を繰り返し、子どもたちの本音に寄り添いながら学校の理念・方針をしっかりと説明したうえで転入につなげている。 																				

コンセプト「つくる」「決める」「決めつけない学校」
⇒「学校らしくない学校」づくり

- ・制服・校則はなく、生徒たちの話し合いの中からルール作りを行っている。
- ・登校については、周りの目を気にせず登校できるように通常の登校時間を避け、午前3単位時間、午後1～2単位時間を基本としている。
- ・教育課程980時間（標準時間は1,015時間）
- ・全学年一斉授業の形で行っており、授業への参加は本人の判断に任せている。授業者が一人、他の三人で授業に出ていない生徒の対応をしている。
- ・体験的な活動と学習を関連付けながら授業を進めている。
(例) 調理実習を通して→分量計算(数学)、おしながき(国語・美術)
教室整備を通して→棚づくり(技術)



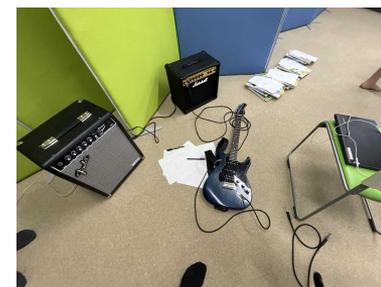
学習室には、クッション等が置かれるなど、生徒がリラックスできる雰囲気となるように環境に配慮している。



学習室を仕切る壁はホワイトボードになっており、自由に絵を買いたり自主学習に活用できる。



調理実習の材料等を置く棚がほしいという生徒の発案で、生徒作業により黒板の半分に棚を制作している。



教室には、ギターやドラムがあり、生徒自身が選択し、活動できるものが多くあった。



調理実習では、生徒たちが役割分担しながら、作業していた。教員や生徒同士とコミュニケーションをとりながら活動していた。



職員室には、生徒は自由に入室でき、ソファでくつろぐ姿が見られた。職員室横にも生徒休憩室が設けられており、生徒たちの居場所となっている。

■八王子市立高尾山学園【学校型】

学校概要

開校	平成16年4月							
対象生徒	・市内在住の小学校第4学年から中学校第3学年までの児童生徒 ・病気や経済的理由を除く年間30日以上欠席または適応指導教室等に 通っており、現在もその状態が続いている児童生徒							
生徒数		小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
	やまゆり 教室	7名	10名	18名	31名	47名	35名	148名
	高尾山 学園	1名	2名	8名	9名	22名	48名	90名
	計	8名	12名	26名	40名	69名	83名	238名
教職員	・通常の学校の教職員配置の3倍近くの教職員がいる。人件費の2/3は市の 予算でまかなっている。 ・異動事務は通常校と同様に行われている。 ・毎月のように転入学があり、4月から比べると年度末には倍以上になる年 もあるが、教員の補充はない。							
転入学ま での流れ	・地域の学校→教育支援センターやまゆり(申込→見学→面談→通級)→高 尾山学園(見学体験→学習体験→生活体験→転入学審査会)							

コンセプト「楽しい」「嬉しい」「美味しい」

- ・総時数は760時間。午前3時間（個別最適な学びの時間）、午後2時間（協働的な学びの時間）
- ・教育課程は、ほぼ学習指導要領を網羅している。時間軽減については、通常4単位の単元を1単元で行うなどシュリンク（縮小）している。足りない部分については、プリント配布等家庭学習で補っている。
- ・授業中の居場所プレイルームがあり、授業中に自由に利用できる。授業に参加するかプレイルームを利用するかは子どもが選択し決めている。（市の職員を常に配置）
- ・体験活動を大切にしており、通常校の2～3倍ある。
- ・「放課後カフェ」
子ども食堂にお菓子を提供してもらい、放課後にランチルームに集う時間を年間5回開催している。



教科の授業はすべて移動教室中学2年からコース選択ができる。チャレンジコース…斉授業で教科書通り教科内容を扱う。到達度把握テストを実施。ベーシックコース…それぞれの学力に合わせて個別に指導し、学力向上を図る。



教室の後ろの棚には、単元別に分けられたプリントが常備されており、生徒たちは自分が学びたい内容のプリントを選択し、家庭学習や個別学習に活用している。



上：教室は、主に特別活動や徳徳の授業で使用。
左：各教室にジグソーパズルが常備しており、休み時間のコミュニケーションツールとして活用している。



校内に教育支援センターが併設されており、学園への入学に向けて段階を踏んだ支援が可能となっている。



教室には本日の日程が掲示されており、高尾山学園での体験活動がスムーズに行われるようになっている。

■中野区立中野中学校(学びの多様化学校としては未認可)【校内型】

学校概要

開校	平成24年4月開校 平成26年4月新校舎へ移転 令和6年4月チャレンジクラス新設				
対象生徒	・中野区立学校に在籍または中野区在住で以下のいずれかに該当する生徒 ○年間30日以上欠席し、登校したくてもできない状況にある生徒 ○欠席が30日未満でも学校に行きづらい傾向が見られる生徒				
生徒数		中1	中2	中3	計
	令和6年4月	2名	1名	1名	4名
	令和6年5月30日 現在	2名	2名	2名	6名
	体験中		2名	2名	4名
	2・3年については、私立から転入。前籍校で不登校であった生徒である。				
教職員	・N組の教員配置は、教諭4名、非常勤2名、学校支援員2名				
転入学までの流れ	・入級のプロセスについては、在籍校の管理職の面談後、申請書提出、見学及び面談を経て2週間の体験入級という流れ、体験中も面談を繰り返し、入級審査を実施し、転出入の手続きとなる。				

チャレンジクラス(不登校対応校内分教室)の設置

- ・東京都が、費用の1/2を補助する形で都内10校に設置。
- ・経費・土地・施設の確保が困難であるという課題を解消。
- ・体育館やプール、その他教室等、本校の既存の施設の利用が可能となる。
- ・本校の2校時から5校時の時間に合わせて運営している。
- ・学習については、入級前のアセスメントにより学習状況を把握したうえで、個に応じた学習指導をしている。



(左) 一人一人の机があり、教室後方には、フリースペースもある。
(右) 個人ロッカーも設置されている。

参考となる点

- 個人の意思を尊重
 - ・生徒たち自身がルールづくり
 - ・プレイルームの活用と授業力向上
- コンセプトの明確化
 - ・学校のコンセプトに基づき体験と面談を繰り返し、入学の前のミスマッチにを防ぐ。
- 研修体制
 - ・研修に学校の指導支援員を1日体験するプログラムがあるなどの教職員研修実施

検討すべき点

- 地域資源の活用
 - ・民間との連携や地域資源の活用について
- アクセスの問題
 - ・立地場所とアクセスについて